

近藤 さえ子の 小枝通信

一本の小枝がつなぐお母さんの声

一本の小枝で結ぶ地域の世代

一本の小枝が渡す地域と区政

No.29 2017年1月発行

2017年新しい年が始まりました。

昨年の大ヒット映画「君の名は。」をプロデュースした川村元気氏は、映画や著作のヒット要因についてインタビューを受け、「皆がずっと思っているけれど、口にはしないことを口に出してみる。そこに共感が広がる」と語りました。

例えば、区が全廃する児童館。これでは「地域で子育て!」に逆行するのではないか。

例えば、いじめを受け不登校になった子どもに「無理に学校に来なくていい」と言う教育委員会。それでは、いじめられる子どもの学校に通う権利はどうなるのか。

例えば、「地域で高齢者支援!」。町会・商店街・民生委員等、地域全体が高齢化する中で、誰が、どのように高齢者を支えていくのか。

普通の主婦の目線で考える疑問「これはおかしいのでは?」、そんな感覚を大切に、「社会のおかしい」を皆様と共に少しずつ是正して行ければ幸いです。

本年が、皆様にとり、明るい年となりますことを祈願いたします。



いま中野区は!

今、中野区は再開発やまちづくり計画が目白押しで大きく変わろうとしています。区は「意見交換会やパブリックコメントを行って区民の声を聞いている」と言いますが、生活環境を守りたい住民の声は反映されているのでしょうか。

建設委員会から

11月15日の建設委員会で平和の森公園再整備基本設計が示されました。第4回定例会に出された陳情の中に、「バーベキューサイトを設置することに反対する陳情」がありました。

区側は「整備構想(案)→基本計画(素案)→基本計画(案)」等と進む過程で、意見交換会等で区民の意見を聞いている」と言いますが、その後に突如バーベキューサイトの設置が決まりました。

私は、バーベキューサイト設置自体については、他の公園利用者、近隣住民に不快感を与えなければ悪くはないと思います。しかし、管理体制やごみの問題、飲酒を伴うバーベキュー施設が、住宅街の中にある公園に合うのか、公園の維持管理費の値上げに繋がらないか等、様々な点が検討されないまま設置を決めたことは問題だと考えます。区がこのようなサービスを税金で提供することに対し、もう少し住民に問う必要があると考え、陳情に継続審査を希望しましたが、否決され、予算面や管理面等説明されないまま、平和の森公園にバーベキューサイト設置が決まりました。

現在のサンプラザ・区役所の場所に1万人を収容するアリーナの整備、平和の森公園に新体育館・陸上トラック・イベント広場の整備、哲学堂公園及び哲学堂公園周辺には観光拠点の整備計画、区は「賑わい」を呼び込むための整備を進めています。しかし、区民は集客施設整備より、「暮らしやすさ」を求めています。

多額の税金を使う公共施設整備です。生活環境を考える区民の声が計画の段階で反映されることを願います。

少子高齢化対策調査特別委員会から

10月に示された報告「『中野区子ども・子育て支援事業計画(平成27年3月策定)』の進捗状況と今後の取り組みについて」には、「すべての小学生が放課後等を安全安心に過ごし、多様な体験や活動を行う場として、全小学校にキッズ・プラザと学童クラブを設置し、一体型の運営を行う。」「校舎の改築に伴い整備するキッズ・プラザには乳幼児室を配置し、キッズ・プラザと同一事業者へ委託して子育てひろば事業を実施する。」と明記されました。

『新しい中野をつくる10か年計画(第3次)』策定段階の意見交換会やパブリックコメントにおいて、「キッズ・プラザが設置されても児童館を残して欲しい」と言う区民の要望が大変多かった(これまでのパブリックコメントで最多)にもかかわらず、「意見は聞きました」「手続きは踏みました」として、(初めから決まっていたと言うように)児童館を廃止し、子どもたちの居場所は学校の中と決定してしまいました。多数の区民の意見は全く反映されません。(総括質疑子育てひろば参照)


<http://saekonikki.exblog.jp/>


日々の活動をお知らせしています。

10月22日 区民向け講座「高齢者の犯罪について」

中央大学名誉教授、公益財団法人矯正協会会長、日本更生保護学会会長、最高検察庁参与等要職を兼務される犯罪学の大家、藤本哲也弁護士をお招きし、区民向けの講演会を開きました。内野大三四郎区議と私との共催です。

高齢者の検挙人員は20年前比で4倍に増加している。高齢女性の犯罪の8割が万引きで、平成25年を境に少年の万引きを上回る。また、万引きを諦めた理由としては「店員に声を掛けられたから」が87%、「防犯カメラがあったから」は0%である。

これら高齢者の犯罪には、1人暮らしの寂しさ、年金額の低さ、認知症等の病気、規範意識の低下など、中野区が取り組んでいる現在の社会問題が山積していました。

参加者は、「先生のお話を聞けてよかった」「良い企画をしてくださってありがとうございました。」と喜んでくださいました。

12月3日 北原小学校開校80周年の式典と祝賀会

父は、北原小学校の1期生です。今回は、懇親会だけの出席でしたが、式典の挨拶で校長先生が校章の由来に触れ「1期生の近藤正二さんが大根の花だとおっしゃっていました」と参列できなかった父の健在を伝えてくださいました。

祝賀会では、お囃子と獅子舞、津軽三味線、チアダンス等が披露され、地元商店街のお料理をいただき、楽しい時を過ごしました。父も、先生方を初め、大勢の知人に挨拶ができたことを喜び、帰り道「あれだけの会を企画するのは大変だっただろう」と80周年実行委員会の皆さんを労っていました。皆様ありがとうございました。





私の議会報告

近藤さえ子は第3回および第4回定例会で以下の質問をしました。(抜粋)



第3回定例会 (2016年9月9日～10月14日)

一般質問 9月13日

◆ 高齢者と生活保護について ◆

生活保護費は区の財政の10%を占め、無年金、低年金、病気による預金取り崩し等、高齢者にとって避けられない要因により増加している。

一方、日本の生活保護の捕捉率(生活保護基準以下世帯で、実際に受給している世帯数)は20～30%程度、生活保護受給は恥ずかしい、制度への無理解等、やはり高齢者にありがちな理由で低迷している。

高齢者の生活保護を減らすには、65歳以上の就業支援が必要である。現在の区の捕捉率は、65歳以上の就労支援にどのように取り組んでいるのか。高齢者と地域社会とを結びつける取り組みはあるか。区民検診後の改善運動プログラム提供等で高齢者の医療費削減に繋げてはどうか。また、ケースワーカーの質と量の確保は喫緊の課題と考える。

中野区に住まう高齢者が、社会的に孤立せず、元気に幸福感をもって生きていける地域を目指し、高齢者に対する社会保障・社会福祉が整った区になるよう希望したい。

区長答弁

区の捕捉率統計数値はない。就労を希望する場合は、中野就職サポートや中野就労セミナーで支援している。高齢者の社会的孤立防止のため、民生児童委員と担当ケースワーカーとの連絡会を行っている。ボランティア講座や介護予防教室参加費用の支給で地域参加を支援している。ケースワーカーについては育成を図り、適切な人的配分に努めている。

◆ 第六中学校跡地の道路整備について ◆

第六中学校跡地の近隣の区民から、「区から道路整備のためボーリング調査を開始する知らせが来たが、道路ができることは何も聞いていない」と問い合わせを受け、担当部署に尋ねたが、区の土地に何を作るかは特に説明はしていないと言うことであった。

この道路を新たに整備する理由・必要性は。区はなぜ地元の説明をしなかったのか。区民の理解を得ない状況で、この道路整備を行う予定か。

先頃、野方駅周辺地区まちづくり検討会が設立され、第六中学校跡地周辺もこの検討対象区域となっている。この道路整備について一旦立ち止まり、近隣住民が自分たちの街の将来のありかたを検討できる時間を作っていたきたい。

都市基盤部長答弁

第六中学校跡地周辺は木造住宅密集地域であり、災害時の地域の安全性を考慮し、また都立中野工業高校が避難所予定となるため道路整備が必要。本件は、用地の買収等が伴わないため、計画段階での地元への相談等は行っていない。今後、道路の必要性等について丁寧に説明し、区民の理解を得ながら予定通り整備を進めて行きたい。

決算特別委員会 総括質疑 9月23日

◆ エキスパート職員について

近藤 エキスパート職員がいない分野もあり、昨年度から2人減っている。職員がどのようなエキスパート職員を目指したいのか、認定された職員が他の職員とどのような違いがあるかなどを検証していただきたい。

伊藤経営室副参事(人事担当)

改めてエキスパート職員認定制度の周知を図り、キャリアプランを考える際の目標とできるよう情報提供を行いたい。

◆ 待機児童対策について

近藤 中野区は、保育園待機児童数が全国で20位。毎年保育所整備のための補正予算を組むが、年度にまたがり予算の繰り越しが度々行われている。安定した予算編成で待機児童解消のため適切な対応を図るべきだ。

近藤 平成24年度から今年度までに、学童クラブの待機児は7倍に増えている。定員オーバーになってから慌てて民間の学童クラブを誘致する方法では間に合わない。需要と土地や業者とのマッチングができないと、せっかく民間誘致しても定員が満たない状態となる。しっかりした検証が必要だ。

◆ 子育てひろばについて

近藤 丸山児童館の廃止から5年、地域乳児親子の居場所の一つキッズ・プラザ緑野を視察したが、乳幼児親子は誰もいなかった。自転車で通えない、ベビーカーを2階に持ち上げる等不便すぎる。

石濱北部すこやか福祉センター副参事(地域子ども施設調整担当)

自転車置き場は整備した。子育てひろばの事業展開は、利用しやすい場所、施設面の整備、スタッフの配置等運営面でも考慮していく。

◆ 防犯カメラの設置について

近藤 町会、自治会、商店街等の防犯カメラの維持管理費等は各団体の負担が大きい。防犯カメラの管理運営の継続性や有効利用の観点からも、区の一元管理が望ましい。

伊東都市基盤部副参事(生活安全担当)

現在、防犯カメラの整備・設備の補助を優先実施。維持管理経費については、申請状況を踏まえて研究したい。



第4回定例会 (2016年11月24日～12月8日)

一般質問 11月28日

◆ 地域包括ケアシステムについて ◆

「(仮称)中野区地域包括ケアシステム推進プラン(案)」では、1番目に「本人の選択・権利擁護」、2番目に「地域での見守り支え合い」が示されているが、町会、自治会、民生児童委員等は、高齢化も進み、今でも仕事量が多い。国は、地域包括ケアシステムの構築にあたり、特に都市部では「互助」を意識的に作っていかねばならないとしている。

まず、本人の選択・権利擁護を謳う理由は。また、今後の地域包括ケアシステムの構築には、人員の増強が必要と考えるが、いかがか。

行政が明確な方向性および住民を支える体制を持ってこそ、区民は自分たちで支え合いの活動に参加し、住民パワーを発揮する。住民をしっかり支えながら動ける職員の質と量を希望する。

区長答弁

高齢者や障害者の支援の他に、本人の意見を守ることが尊厳性を守ることに繋がる。また、生活支援・介護予防サービス提供体制の構築に向け、新たなサービスの担い手の発掘等に取り組んでいる。

◆ 人権尊重・命の教育について ◆

中野区では、学校における人権教育の重要性を認識し充実を図ってきた。私は、人権侵害被害者の支援者、自治体職員、警察等と話す度、中野区の人権尊重教育の授業等を紹介し、多くの皆さんに賞賛されてきた。

子どもたちに他者を尊重し、自分も大事にする心を育てるため、教師はどのような研修や講義などを受けているのか。男女平等推進教育に係る授業はどのように取り組んでいるのか。特別な支援を必要とする子どもたちに対する理解を高めるための努力は足りているか。

他者を尊重し、命の尊さを伝える教育は簡単なものではないが、児童生徒の心に響き、規範意識を高める人権教育の充実を今後もお願いする。

教育長答弁

管理職も含む教員が人権に関する研修を受講している。男女共同参画授業は本年度1校で実施した。特別支援教育は、障害のない児童生徒との相互理解を図り共生社会の実現を目的とし、保護者の理解を求めている。学校教育の指導目標として生命を大切にすることを推進していく。

こ えた

小枝ネット(ホームページ) <http://www.koeda-net.com/>

近藤 さえ子 プロフィール

近藤正二(中野区議11期)の次女 北原小・十一中・吉祥女子高・和光大学卒 中野区議会議員(4期) 趣味:テニス

こ えた

近藤 さえ子の小枝通信

発行:中野市民の会 編集:近藤さえ子事務所

TEL & FAX 03-3330-9584

E-mail saekokondo@mbh.nifty.com